

細菌性の下痢症が多くを占めています。一方でケニアの都市部では、先進国と同じくウイルス性の下痢症が増えています。なかでもロタウイルスが3～4割を占めているため、現在、実態調査とその対策に取り組んでいます。

ロタウイルスは数個のウイルスでも感染するため、手洗いだけでは防げません。予防の切り札となるのはワクチンですが、ケニアでは動物に感染するロタウイルスと交雑したタイプが少なくなく、

先進国で開発されたワクチンに効果があるか不明です。そのため、2015年から3年計画で、ワクチンの効果の検証を進めています。

コレラ菌からロタウイルスに研究対象は変わりましたが、小さな子どもの命を救うという目標は同じです。現実の問題解決は熱帯医学の要です。

次号(2016年9月号)では「熱研新興感染症学分野」を取り上げます。

新興・再興感染症

MERS

(中東呼吸器症候群)

中東呼吸器症候群(MERS)は、2012年9月に英国のロンドンで、中東への渡航歴のある重症肺炎患者から発見された新種の「コロナウイルス」による感染症です。その後、サウジアラビアやアラブ首長国連邦(UAE)など中東地域に居住したり渡航したりしたことのある人や、MERS患者と接触したことのある人から、MERSウイルスが次々と発見されました。2015年5月には、パーレーンなど中東地域を旅行後に韓国に戻った男性の感染が確認されました。病院内での感染をきっかけに韓国内で180人以上が感染し、30人以上が死亡する突発的流行になったことは記憶に新しいところです。

MERSウイルスに感染すると、発熱や咳、息切れなど軽度の呼吸器症状から、肺炎や重症急性呼吸器疾患まで、さまざまな症状がみられます。これまでの報告では、MERS患者の約36%が死亡しています。特に、高齢者や免疫力が弱い人、がん、慢性肺疾患、糖尿病などの慢性疾患がある人では重症になるリスクが高く、注意が必要です。

新種のウイルスによる重症呼吸器感染症 中東地域を旅行し、発熱した場合は注意を

MERSウイルスを持つのはヒトコブラクダといわれています。MERSが発生している中東地域では、ラクダと接触したり、ラクダの未加熱肉や未殺菌乳を摂取したりすることで感染するリスクが高まります。また、発症した人からの飛沫感染や接触感染も報告されています。

MERSにはワクチンや治療薬はありません。外務省では、中東地域ではラクダとの接触を避けたり不用意な接近は避ける、未殺菌のラクダ乳は飲まないなどの注意を呼びかけています。また厚生労働省は、流行国から帰国して発熱や咳などの呼吸器症状がある場合やラクダに接触した場合は、検疫官に必ず申し出るよう呼びかけています。また、中東地域やMERS患者の発生が報告されている地域から帰国後14日以内に、息苦しい、動けないなどの症状がある場合は、まず最寄りの保健所に相談し、中東地域などに滞在していたことを教えてください。

次号(2016年9月号)では「ラッサ熱」を取り上げます。